

乳児期の読書環境構成に関する発達研究 —絵本場面における実物への指さしを中心として—

川村学園女子大学 菅井 洋子

A developmental study about constructing of reading environment in infancy. Focusing on pointing to real object in the real world during joint picture-book reading.

Kawamura Gakuen Woman's University SUGAI, Yoko

要 約

本研究では、絵本場面の「実物への指さし」に焦点をあて、乳児期の読書環境構成について解明することを目的とした。まず家庭の絵本場面での実物への指さし研究（菅井，2009 等）をもとに、乳児が生活する家庭以外の場である「保育所」における実物への指さしについて、保育士への質問紙調査を実施し検討した。主な結果として①保育所でも絵本場面で実物を指さすことが示され、「挿絵の形」と類似する周囲の実物のみならず周囲の「絵」も指さし、「挿絵の色」との類似性から実物を指さすことが新たにみいだされた。②「保育室内外」の実物や絵、さらに「保育所外」でも実物への指さしがみられ、注意を向け合う対象を空間的に時間的に広げ、絵本世界と現実世界を行き来しながら共同活動を展開し、広い環境に配置されている実物や絵が影響を与えること等が特徴として示唆された。最後に家庭と保育所での相違や共通点をふまえ、乳児期特有の読書環境構成について考察した。

【キー・ワード】 指さし，共同注意，実物，読書環境，乳児，保育所

Abstract

The purpose of this study is to examine reading environment in infancy, focusing on pointing to real object in the real world during joint picture-book reading. At home, it has been observed that infant point not only to the pictures on the page but also to real objects in the real world. The present study analyzed in detail thorough questionnaire to nurse. The main findings are as follows. First, like at home, it shows that infants point to real object in the real world during joint picture-book reading at nursery. And it was newly discovered that infants point not only to 'real object', but also to 'picture' in the real world. As the pointing objects, pictures in the real world were newly discovered. It is suggested that there is a similarity between the 'picture' and 'color' in the picture-book and the 'real object' and the 'picture' in the real world. Second, it showed that

the activity space was widen between in the nursery and outside the nursery. Finally, the characteristics of constructing the reading environment in infancy at home and nursery were discussed.

【Key words】 pointing, joint attention, real object, reading environment, infant , nursery

問題と目的

家庭での母子による乳児期の絵本場面の特徴は、絵本場面を乳児と母親と対象の三項関係から成立する「共同注意場面 (Tomasello,1999 ; 2003 ; 2008)」と捉え、「共同注意の指さし」に着目することにより解明されてきている (菅井, 2009 ; 菅井・秋田・横山・野澤, 2010 等)。

とくに母子が指さす対象を検討した結果では、1歳半、2歳半時期に、絵本の紙面上の挿絵や文字ばかりでなく、挿絵と類似する周囲の「実物」を指さし、現実世界にまで注意を向けあい共同活動を展開することや、とくに1歳半時期には、遠くの実物のところまで乳児が歩いて移動し、挿絵と実物を交互に指さして喜びを表現しながら母親と共同活動を楽しむ姿が観察され、母子の共同注意場面における活動空間が広がることがみいだされた (菅井・秋田・横山・野澤, 2009)。絵本世界と現実世界を実際に歩いて行き来しながら、乳児が挿絵と実物を能動的に指さし、身体を使って挿絵と類似する実物を理解し、物や母親と関わることを繰り返し楽しむことは、乳児期の絵本場面の特徴であると考えられる。そこで絵本を静かに聴く姿勢をとるばかりでなく、絵本を読む場として活動空間を広く探索しながら、注意を向けあう対象を周囲の「実物」にまで広げる可能性があることを考慮に入れ、乳児期の読書環境を構成することは重要なことであると考えられる。この絵本場面で乳児が挿絵と類似する実物を指さすことについては、実践報告がなされたり、親が乳児と絵本を読んでいて印象的な出来事として取り上げ喜んで語ることはあるとしても、実物への指さしをとりあげ、体系的に読書環境構成との関連から検討されてきていない。

以上は、家庭での母子による絵本場面を検討し導かれたことであるが、乳児が生活する家庭とは異なる場所である「保育所」においても、実物への指さしは出現するのであろうか。家庭での母子による絵本場面では、対象を指さし、その対象へ注意を向けてほしい意図的主体や共同で読みあう相手は定まっているが、保育所での絵本場面では、複数の保育士や子どもたちが集団で生活する場であるため、家庭との相違や共通点がみられることが予想される。乳児の発達に応じた読書環境を解明するためには、乳児が生活する両場所をとりあげ検討していくことが必要であると考えられる。さらに保育所では、乳児保育の中でどのように絵本が位置づけられているのかについて十分に検討する必要があると指摘されており (徳永, 2009)、また保育では環境構成の重要性は語られているにもかかわらず、絵本場面等の場面別に検討がなされてきていないのが現状である。そこで保育所での絵本場面の実態を把握するために、まず保育士へ質問紙調査を実施し、3歳以上と比較した結果、3歳未満クラスの絵本場面の特徴が示され、保育所ならではの読書環境構成の工夫等が示された (菅井, 2011a)。「言葉」を十分に話すことができない時期であるが、「手」で絵を指さしたり、つかもうとしたり、「口」で絵をなめたりかじったり、「足」で立ち上がり歩いて絵と同じ物を取りにいきもってくる等、身体全体

を使って能動的に絵本に働きかけ参加すること等が保育士の回答から浮かび上がった。

これらの保育所での絵本場面の実態をふまえ、本論文では実物への指さしに着目した家庭での絵本場面研究（菅井，2009；菅井・秋田・横山・野澤，2009）をもとに、保育所での絵本場面における「実物への指さし」に焦点をあて、とくに乳児期特有の読書環境の構成を探ることを目的とする。具体的には、①保育所における絵本場面での実物への指さしの実態、②保育所での絵本場面における実物を中心とした共同活動の展開を検討する。最後に「保育所」での結果を「家庭（菅井，2009）」との相違や共通点からまとめ、総合的に考察する。

方 法

「保育所での絵本との出会い等に関する調査」として、東京近郊で行われた保育士会の集まりの際に調査回答協力を依頼し、協力が得られた保育士へ調査用紙を配布し、郵送にて全て回収した。調査は、2009年9月、10月に実施した。調査協力者である保育士は、次の通りである。

調査協力者 東京近郊で勤務している保育士 52名。現在所属している保育所（公立 30名，私立 22名）。性別（男性保育士 2名，女性保育士 50名），年齢（20代 26名，30代 16名，40代 9名，50代以上 1名），保育歴（平均 9年 7ヵ月，1～31年 3ヵ月）。現在の担当クラス（3歳未満クラス 28名，3歳以上クラス 20名，担当なし 4名）。絵本を読むことの好意度（とても好き 21名，好き 29名，好きでも嫌いでもない 1名，無回答 1名）。絵本経験：一緒に読む児（3歳未満児が多い 23名，3歳以上児が多い 22名，その他；両方同じ 7名）。

質問紙の構成 本研究の目的を達成するために、家庭での絵本場面に関する調査や観察研究（秋田・横山・ブックスタート支援センター，2002；横山・秋田・ブックスタート支援センター，2002；秋田・横山・野澤・菅井，2005；菅井・秋田・横山・野澤，2009；2010，菅井，2009等）を参考に、保育所での絵本場面に関する質問紙を作成した。質問項目の詳細は、菅井（2011a）参照。

分析 本論文では、実物への指さしに関する項目のみを分析する。分析Ⅰでは、実物への指さしの出現有無（2択：ある・なし）および出現時期（複数回答有），指さし対象となる実物（自由記述）を検討し，分析Ⅱでは，実物への指さしによる共同活動の様子（自由記述）を検討する。保育所における絵本場面での実物への指さし以外の結果は，菅井（2011a）を参照していただきたい。

分析Ⅰ：保育所における絵本場面での実物への指さしの実態

まず分析Ⅰでは，保育所における絵本場面での実物への指さしの実態を，保育士の回答から検討した結果をまとめていくことにする。

結果・考察 1. 「実物への指さし」の出現有無と出現時期

絵本場面で，乳児や保育士が実物を指さすことがあるかを尋ねた結果，72%の保育士が，子どもが3歳未満時期に実物を指さすと回答し，61%の保育士が，3歳未満児と一緒に読みあう時に自分自身

実物を指さすことがあると回答していた。保育所においても、乳児期の絵本場面で実物を指さしていることが、回答から窺える。

次に各々の時期に実物への指さしが出現したかを尋ねた結果（複数回答あり）、子どもが 0 歳の時 15.4%，1 歳の時 34.6%，2 歳の時 57.7%が指さすと回答し、保育士自身は子どもが 0 歳の時 25%，1 歳の時 40.4%，2 歳の時 40.4%に指さすことがあると回答した。保育所で 3 歳未満時期に実物を指さしている子どもや保育士がいることが回答から窺える。

結果・考察 2. 指さし対象となる周囲の「実物」の検討

絵本場面で、子どもが実物を指さすことがあると回答した場合、どのような周囲の「実物」が指さし対象となるのかを尋ねた。記述から、絵本の「挿絵」と指さし対象となる「実物」を取り上げ、どのような挿絵と実物かを分析しまとめたのが表 1 である。

表 1 絵本場面で指さし対象となる周囲の「実物」

絵本世界		現実世界	挿絵→実物
絵本の「挿絵」		指さした「実物」	
挿絵の形	時計	保育室の壁にかけてある時計	物→実物
	靴下	自分(乳児)がはいている靴下	物→実物
	セミの抜け殻	自分もっているセミの抜け殻	物→実物
	犬	玩具の犬	物→実物
	車	玩具の車	物→実物
	花や野菜	クラスで育てていた花や野菜	物→実物
	ボール	ボール	物→実物
	金魚	水槽の中の金魚	物→実物
	物の絵(写真)	身近にある物	物→実物
	動物や生き物	動物や生き物(生活の中)	物→実物
	トラック	トラック(散歩の途中)	物→実物
	オマルでおしっこをしているところ	オマルに座っていた子のおしっこしているところ	事象→実物
	泣いている子	自分	事象→実物
	雨降り	窓の外の雨	事象→実物
挿絵の色	色	色と同じもの(同じ色の自分の服など)	物→実物

その結果、絵本の「挿絵の形」ばかりでなく「挿絵の色」と類似する「実物」も指さすことが新たに示された。

また、指さした実物をみると、時計、昆虫(例:セミ)、玩具(例:犬)、植物(例:花や野菜)、魚(例:水槽の中の金魚)、動物、乗り物(例:トラック)、自然(例:雨)や、人(例:自分、他児)が含まれることが示された。

そして、絵本に描かれた物の挿絵と類似する実物(「物→実物」)や事象の挿絵と類似する実物(「事象→実物」)が指さし対象となることが示された。

絵本世界と現実世界の行き来は、以上のような周囲の「実物」との関係の中でみられることが示された。さらに、周囲にある「絵」なども指さし対象となることが新たにみいだされたので、続いてみていくことにする。

結果・考察 3. 指さし対象となる周囲の「絵」の検討

絵本場面で、周囲の「絵」が指さし対象となると記述されていた回答をもとに、絵本のどのような「挿絵」との類似性から周囲の「絵」を指さすのかを分析し、まとめたのが表 2 である。

表 2 絵本場面で指さし対象となる周囲の「絵」

絵本世界		現実世界	挿絵→実物
絵本の「挿絵」		指さした「絵」	
挿絵の形	動物	保育室の壁面にある動物の絵	物→絵
	靴下	保育室の壁面にある靴下の絵	物→絵
	アンパンマン	後ろにあったアンパンマンの紙芝居の絵	物→絵
	カエル	トイレに貼ってあるカエルの絵	物→絵

このように、絵本の「挿絵の形」との類似性から周囲の「絵」が指さし対象となることが示された。周囲の「絵」である壁面や紙芝居や掲示物の絵が指さし対象となり、絵本の物の挿絵と類似する周囲の絵（「物→絵」）を指さすことが示された。

保育所ならではの壁面や紙芝居などがある環境が、子どもの対象への注意を導いたのだと考えられる。

分析 II：絵本場面における周囲の実物や絵を中心とした共同活動の展開

分析 II では、分析 I の結果をふまえ、実物を指さすと回答した保育士へ、保育所における絵本場面で周囲の実物や絵を中心とした共同活動をいかに展開しているのか、その様子の詳細な記述を検討した。

結果・考察 1. 周囲の実物や絵を中心とした共同活動の展開

絵本場面で、どのように絵本の「挿絵の形」や「挿絵の色」との類似性から周囲の「実物」や「絵」を指さして共同活動を展開しているのか、自由記述をもとに家庭での分析（菅井・秋田・横山・野澤，2009）を参考に、「実物の指さし形態」（「P」：指さしのみ（pointing）と「PV」：発話を伴う指さし（pointing and vocalization）や「実物の配置」（保育所内の絵本を読みあう「保育室内」と「保育室外」，「保育所外」），「移動」有無を検討し、まとめたのが表 3 である。

表 3 絵本場面における周囲の実物や絵への指さしによる共同活動の展開

絵本世界 絵本	現実世界 指さし対象	記述	記述内容	実物の指さし 形態	実物の配置			移動
					保育室内	保育室外	保育所外	
挿絵の形	実物	1	『あーんあーん』を読んでいるとき、 <u>絵本の子が泣いている絵(挿絵:事象)</u> をみて、 <u>自分(実物)</u> を指さした。これは自分だと逆バージョンで教えてくれる。	P	○			
		2	絵本にでてくる登場人物の <u>膝下(挿絵:物)</u> をみつけると、「みてー！」とうれしそうに <u>自分が履いている靴下(実物)</u> を指さして言っていた。	PV	○			
		3	<u>セミの抜け殻の絵(挿絵:物)</u> をみたとき、「ぼくも持っている！」と言って、 <u>自分が手に持っている本物のセミの抜け殻(実物)</u> を指さした。	PV	○			
		4	1歳半時期『こです』の <u>絵本の時計の絵(挿絵:物)</u> をみて、 <u>保育室にかけてある時計(実物)</u> を指さし、「ココニアルヨー」と教えてくれた。	PV	○			
		5	時計の本を読んでいると、 <u>時計の絵(挿絵:物)</u> と、 <u>保育室の時計(実物)</u> を指さして見比べてみている。	P	○			
		6	トイレのオマールがでてくる本で、 <u>トイレのオマールでおしっこをしている絵(挿絵:事象)</u> が描かれているのを見て「おしっこでたね」というと、 <u>オマールに座っている子(他児)</u> のところまでいって、 <u>おしっこをしていることを確認して、「でてる！」</u> と言って指さした(実物)。	PV	○			○
		7	乳児(1, 2歳)が、 <u>身近にある物が絵本の絵(写真)(挿絵:物)</u> でてきた時、 <u>同じもの(実物)</u> を指さして、「おんなじ、おんなじ」と共感をもとめるように伝えてくる。	PV	○	○		
		8	『きんぎょがにげた』の絵本を1歳後半、読んでいるときに、 <u>水槽の中の金魚(実物:物)</u> をみつけ、「あった！」と <u>絵(金魚)(挿絵)</u> と同じものをみつけたことを喜んで、 <u>実物を指さして</u> みっていた。「そうね。」と同調すると、とても満足そうにしていた。	PV	○	○		
		9	『ノントンの絵本』の中で、 <u>ボールの絵(挿絵:物)</u> がでてくると、それをみて、2歳のAちゃんが <u>ボールがあるところまで行き、「ん、ん」とボール(実物)</u> を指さした。「ボール同じだね。」と声かけると嬉しそうにボールをなげた。	PV	○	○		○
		10	雨降りの絵本を読んでいると、 <u>雨が降っている絵(挿絵:事象)</u> をみて、 <u>窓の外の雨(実物)</u> を指さした。	P		○		
		11	絵本にでてきた動物や生き物の絵(動物、生き物)(挿絵)を、生活の中でみつけ、その動物や生き物(実物)を指さした。	P			○	○
		12	前に読んだ絵本のことだったので、散歩の途中で、 <u>実物(トラック)(実物:物)</u> をみると「トラックおんなじと <u>絵(トラック)(挿絵)</u> を覚えていて、 <u>トラックを指さして</u> 「あの絵本のことだね。」と会話につながって楽しんだ。	PV			○	○
挿絵の色		13	1歳半頃、いろいろな色がでてくる絵本で、 <u>その色の物(挿絵の色:物)</u> と同じ物(自分の服など)(実物)を指さして楽しんでいた。	P	○	○		
挿絵の形	絵	14	異年齢で読んでいるときの1歳児が、 <u>アンパンマンの絵(挿絵:物)</u> をみて、後ろにあったアンパンマンの紙芝居の絵(絵)を指さし「あそこ(あそこ)にいるよー！」と指さしていた。	PV	○			

※下線は挿絵と実物を示し()は対象を記した。「移動」の○は移動したこと、「実物の配置」の○は実物が配置されていたと考えられる場所を示す。

現実世界の実物への指さしによる共同活動が 13 (記述 1~13)、絵への指さしによる共同活動が 1 (記述 14) で、計 14 の周囲の対象である実物や絵への指さしによる共同活動の展開についての記述がなされていた。

記述から出現時期を検討すると、「1歳半頃」(記述 4, 13)、「1歳後半」(記述 8)、「異年齢で読んでいるときの1歳児」(記述 14)、「2歳」(記述 9)、「乳児(1, 2歳)」(記述 7)が記されていた。3歳未満時期に出現していることが推察され、異年齢等で共に読む人との関係で出現する可能性が記されていた。

そして実物への指さしを記述から分析すると、「PV」や「P」の2つの指さし形態がみられた。

次に、指さし対象となる実物の配置を検討すると、保育所の絵本を読んでいる保育室の中である「保育室内」ばかりでなく、「保育室外」や「保育所外」の実物を指さすことが示された。「保育室内」では、自分(乳児)(記述 1)から部屋の壁(記述 4, 5)や他児がいる所(記述 6)まで、「保育室外」では身近な物(記述 7)から外の雨(記述 10)まで、広い範囲にある実物が指さし対象となることが示された。さらに、保育所外では散歩中や日常生活中(記述 11, 12)に絵本の挿絵との関連で実物

を指さすと保育士が捉えていることが判明した。

また絵本を読みあう場所から保育室内や保育室外の実物のあるところまで移動して、共同活動を展開する様子も記されていた（記述 6, 9, 11, 12）。

このように、絵本を読みあう場を取り巻く広い環境にある物が、乳児期の絵本場面に影響を与えていることが実物への指さしから窺える。

結果・考察 2. 保育士が捉える絵本場面での周囲の実物や絵による共同活動

子どもとの現実世界の実物や絵への指さしを中心とした共同活動を、保育士がいかに捉えているのかを、記述から分析した。

その結果、子どもが実物を指さし「楽しんでいた」（記述 13）ことや、子どもから保育士へ実物をみつけ「嬉しそうに」（記述 2）、「喜んで」（記述 8）指さし、保育士へ「教える」ことや、子どもが保育者へ実物を指さした後、保育者が声をかけると子どもが「嬉しそうにボールを投げ」（記述 9）たり、保育者が応じると「会話につながって楽しむ」（記述 12）こと等に展開していく様子が記されていた。

また保育士の記述をみると、子どもの発話に「！」（例：「みてー！」「あった！」）と表記されていることが多く、この表記から、実物をみつけたことを嬉しそうに、喜んで伝えている子どもの姿を窺い知ることができる。

総合考察：乳児期特有の読書環境の構成

本研究では、乳児期特有の読書環境構成を「実物への指さし」から探ることを目的とし、とくに本論文では、保育所の絵本場面における実物への指さしの実態や、実物を中心とした共同活動の展開について、保育士への質問紙調査を実施し検討した。保育所をとりあげた本結果を家庭（菅井、2009）との相違や共通性をもとにまとめ、乳児期の読書環境について考察していくことにする。

乳児期の絵本場面における実物への指さし

まず実物への指さしを検討した分析Ⅰの結果から、保育所でも家庭と同様に、実物への指さしが3歳未満時期に出現し、絵本の「挿絵の形」と類似する周囲の「実物」が指さし対象となることが示された。さらに挿絵の形と類似する周囲の「絵」まで指さし、「挿絵の色」と類似する「実物」を指さすことが新たにみいだされた。絵本世界の絵本の「挿絵の形や色」との類似性から、注意を向け合う対象が広がり、絵本を読む場を取り巻く環境にある現実世界の「実物や絵」が、共同活動に影響を与えることが示唆された。壁面や紙芝居等が置いてある保育所の環境が「絵」への注意を導いたとも考えられる。家庭と保育所の相違点が、今回の調査でも明らかにされた。

乳児期の読書環境構成への示唆

次に分析Ⅱでは、保育所での実物や絵への指さしを、指さし形態や、実物や絵の配置、実物や絵を指さす際の移動有無の観点から、記述されていた共同活動を検討した。

以上の結果をまとめたのが、図1のモデルである。

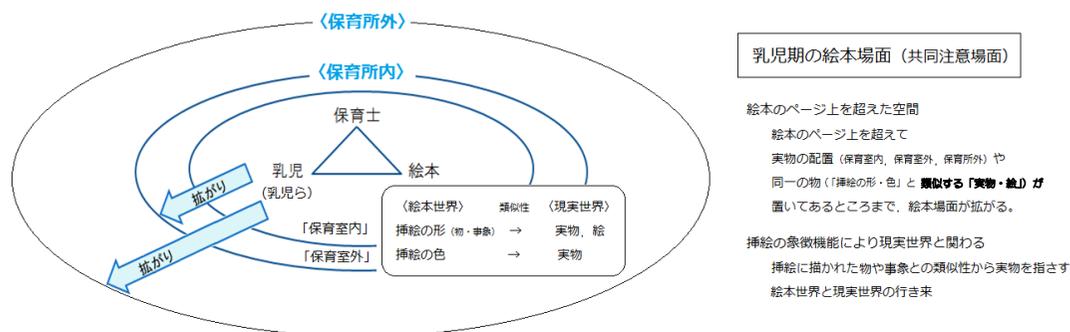


図 1 保育所における乳児期（3 歳未満時期）の絵本場面のモデル

図 1 のように、保育所における乳児期（3 歳未満時期）の絵本場面では、絵本のページ上を超えて、保育所の中の「保育室内」「保育室外」や「保育所外」の絵本の「挿絵の形や色」と類似する「実物」や、「挿絵の形」と類似する「絵」が配置されているところまで絵本を読みあう場を取り囲む広い範囲に及ぶ対象へ注意を向け合い、実際にその対象のところまで「移動し／移動せず」、「発話を伴いながら指さし／発話を伴わず指さし」、共同注意場面における活動空間を広げながら楽しんでいることが示された。この結果をうけ、絵本を読む場として活動空間を広く探索しながら注意を向け合う対象を周囲の「実物」、さらに「絵」にまで広げる可能性があることを考慮し、乳児期の読書環境を構成する必要があることが、実物への指さしをとりあげ読書環境構成との関連から検討した本研究から示されたといえる。

また本研究では、実際に乳児と絵本場面へ参加している保育士の記述を検討したことから、散歩中や日常生活の中での実物への指さしが、絵本とつながっていることが記されており、活動空間を広げるばかりでなく時間をこえて実物を指さし両者が楽しんでいることが新たに判明した。絵本場面へ一緒に参加している相手だからこそ、指さした実物対象から、一緒に読んだ絵本との関連で相手の意図していることを理解し、時間を越えた絵本世界とのつながりを経験しているようである。そして乳児期に周囲の実物や絵を指さすことは共同で読みあう喜びや楽しみを味わうことにつながると位置づけられていることが記述から示され、時間や空間を隔てても同じ対象を絵本世界と現実世界を行き来していることを両者がともに経験することも喜びや楽しみにつながっているのだと推察される。

以上、保育所で乳児期には、挿絵の象徴機能により現実世界と関わり、挿絵に描かれた物や事象の形や色との類似性から、実物や絵を指さし注意を向けあい、実際に絵本世界と現実世界を行き来しながら活動空間や時間を広げ、身体を使って、乳児が物や人（保育士、他児）と関わることを繰り返し楽しむことが示され、絵本を読む場を取り巻く広い環境（人的環境・物的環境）が共同活動に影響を与えることが明らかになった。

一方で保育士へ保育所での読書環境構成の工夫を尋ねた調査では、場や物や人の観点から工夫がなされていることや、絵本へ注意がむかないと困るため、周囲には何も物を置かないこと等の考えが述

べられている（菅井，2011a）。この結果と、本研究で示された周囲に実物がある環境が乳児期の絵本場面での楽しみを導く可能性をひきだすと考えるならば、実物への指さし出現と、実際の保育所での読書環境構成との関連について、読書環境と絵本場面の観察を通しさらに検討していく必要がある。

保育所では、家庭とは異なり複数の他児がいるため、同年齢児や異年齢児で読むこともあり、絵本を読む人により多種多様な読み方があり、読み方によって相違がみられることが推察される。共同注意場面を成立させるために保育所ならではの乳児の工夫なども示されてきている（菅井，2011b）。

今後、保育所のフィールド研究で実際に観察した絵本場面を分析し、今回の調査研究とあわせ、発達年齢に応じた読書環境を構成するために、読書環境の質的变化や発達過程を検討していくことにする。

引用文献

- 秋田喜代美・横山真貴子・ブックスタート支援センター.(2002).ブックスタートプロジェクトにおける絵本との出会いに関する親の意識(1):4ヵ月時でのプロジェクトの効果. *日本保育学会大会研究論文集*.164-165.
- 秋田喜代美・横山真貴子・野澤祥子・菅井洋子.(2005).杉並区ブックスタートパイロット研究：赤ちゃんと絵本との出会いに関する縦断研究，平成14-16年度NPOブックスタート委託助成研究報告書
- 菅井洋子.(2009).乳児期の絵本場面における母子の共同活動に関する発達研究：共同注意の指さしからの探究，日本女子大学博士学位論文（未公刊）。
- 菅井洋子・秋田喜代美・横山真貴子・野澤祥子.(2009).乳児期の絵本場面における母子の実物への指さしをめぐる研究，*読書科学*，52（3），148 - 160.
- 菅井洋子・秋田喜代美・横山真貴子・野澤祥子.(2010).乳児期の絵本場面における母子の共同注意の指さしをめぐる発達の变化：積木場面との比較による縦断研究，*発達心理学研究*，21，46 - 57
- 菅井洋子.(2011a).保育所における乳幼児期の絵本場面に関する発達研究：保育士への質問紙調査からみる3歳未満クラスの特徴を中心に，*川村学園女子大学紀要*，22(1)，227 - 250.
- 菅井洋子.(2011b).保育所における乳児期の絵本場面の特徴：保育士へのKくんの指さしによる働きかけ事例から，*日本発達心理学会22回大会発表論文集*，234.
- 徳永満理.(2009).赤ちゃんにどんな絵本を読もうかな：乳児保育のなかの絵本の役割，かもがわ出版
- Tomasello,M.(1999).*The cultural origins of human cognition*. Cambridge, MA: Harvard University Press.
- Tomasello,M.(2003).*Constructing a language*. Cambridge: Harvard university press.
- Tomasello,M.(2008).*Origins of human communication*. US: MIT Press.
- 横山真貴子・秋田喜代美・ブックスタート支援センター.(2002).ブックスタートプロジェクトにおける絵本との出会いに関する親の意識(2):4ヵ月時での親の読み聞かせに対する考えと行動. *日本保育学会大会研究論文集*.166-167.

謝辞・付記

調査に御協力下さいました保育士の方々，観察させていただきました T 保育所の保育士の方々や子どもたちに，心より感謝申し上げます。本研究を進めるにあたりご教授賜りました東京大学大学院秋田喜代美教授，日本女子大学大学院岩崎洋子教授に深く御礼申し上げます。

なお本論文の一部は，日本発達心理学会第 21 回大会，日本保育学会第 63 回大会にて発表した。